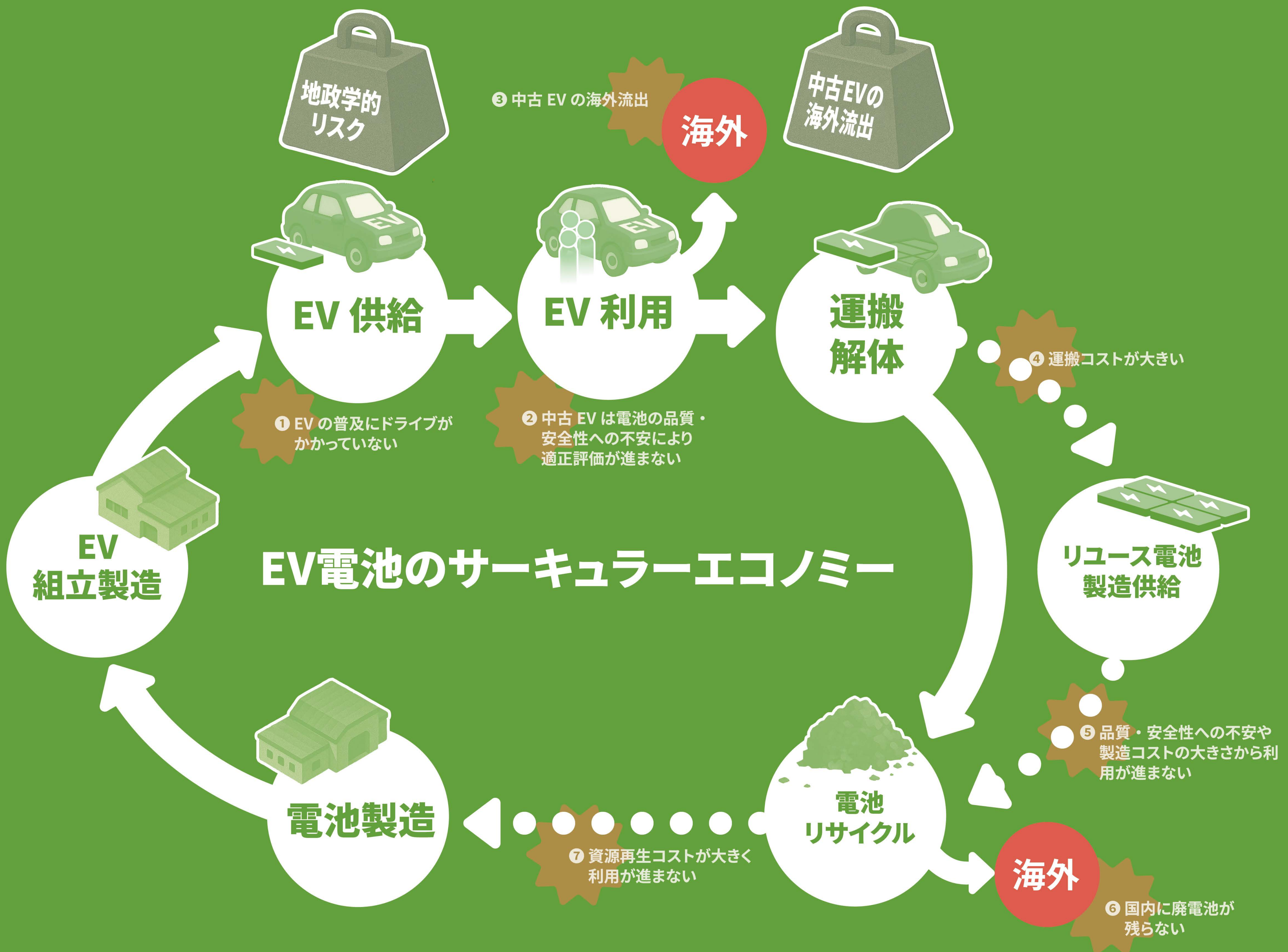


資源の危機!“EV 鉱山”

サーキュラーエコノミーの形成が世界的に推進されており、その中でも EV 電池は車載状態のみならず、リユース・リサイクルにおいても高い価値を発揮することから注目を集めている。「資源安全保障」と「新たな市場の創出」という2つの観点で国内でのサーキュラーエコノミー形成が必要とされるが、「中古 EV の海外流出」が大きな課題となっている。また、昨今、各国の保護主義的な政策ゆえの「地政学的リスク」がますます高まっている。このような背景の中、中古 EV、リユース電池、再生資源の各利用段階に埋もれている“EV 鉱山”を最大限活用するため、「EV 電池スマートユース協議会」を産官学連携で設立し、様々な課題を解決する社会的な仕組み作りを推進している。

※「EV 鉱山」とは、EV 電池のサーキュラーエコノミーを形成することによって、レアメタル等の有用資源のみならず、その上流工程での中古利用、リユース利用を行うことで未利用価値を掘り起こす仕組みを、従来の3R時代の廃棄物の有効利用を行う「都市鉱山」になぞらえて表現した概念。当社による造語。



協議会の使命

安心して中古 EV 電池を利用できるように、ユーザー起点での規格・制度づくりを行うとともに、各種技術の社会実装・市場創出を支援する。

EV 電池スマートユース協議会

資源安全保障

新たな市場の創出

協議会の4部会

- ① 規格化・標準化
- ② 評価指標の策定
- ③ CO2 削減効果の測定と活用方法の検討
- ④ 社会実装に向けた支援

